

2019年度学内版 GP 成果報告書

取組名称	信大経法コーオプ教育の量的・質的強化	
実施組織 (または対象のカリキュラム)	経法学部	
※連携する他学部・機関がある場合は記入		
実施責任者(所属)	山沖義和 (経法学部)	
取組の目標	<p>① 受入機関との連携で、受講生が実際に、または、模擬的に業務を体験する実践的学習について、受入先を増やして量的拡大を図る。</p> <p>② 既存の実践的学習における実習内容の改善、および ICT の活用を含む学習定着の向上といった質的充実を図る。</p>	
1. 目標達成のために行った活動と成果 (箇条書きで項目ごとに番号を付けて記載。成果の詳細は必要に応じて別添とする)	<p>① 今年度(令和元年度)は新たに「こども法務実習」(児童相談所との連携)を完全実施するとともに、「金融業務実習」(八十二銀行との連携)を試行的に開始し、受入先の拡大を実現した。</p> <p>② 本学部では3年次以降、この実践的学習(演習科目を含む)を必ず受講することとしているため、学生の受入枠を確保すべく、これまでも受入機関の多様化に努めてきたところであり、現在までに16科目を提供している。こうした中、例えば「労働法務実習」(労働基準監督署等との連携)ではブラック企業(残業代)問題、「捜査法務実習」(県警・検察庁との連携)ではスマホ犯罪のように、既存の実践系科目においても実習内容の見直し・改善を図った。</p> <p>③ キャリア教育・サポートセンターのご協力の下、同センターが提供する e ポートフォリオの活用を取り入れ、授業内で定期的に活動内容と自己評価の記録付けを実施した。</p>	
2. 目標達成度に関わる所見と今後の展望 (達成の度合いを選び、そう評価する理由と今後の展望を記述)	<p>a. 達成できた</p> <p>b. おおよそ達成できた</p> <p>c. 半ば達成できた</p> <p>d. おおよそ達成できなかった</p> <p>e. 達成できなかった</p>	<p>(評価理由)</p> <p>① 受入先を拡大し、受講生の選択肢を増やすことができた。また、「金融業務実習」ではワークショップを通じて受講生自らの融資・運用プランの提案を行い、新しい形の実践的学習を提供することにつながった。</p> <p>② 既存の実践系科目においても実習内容を更新し、近年脚光を浴びているテーマを取り上げることなどを通じて、受講生の授業および業務への関心を高めることにつながった。</p> <p>③ e ポートフォリオを活用して定期的に活動記録と自己評価を行うことで、学期末における成果報告会に向けた発表資料や研修レポートの作成時には振り返りのための多く材料を提供し、受講生の学習定着と達成感につながった。</p>
		<p>(今後の展望)</p> <p>① 民間機関を中心に受入先の拡大を進めるとともに、ワークショップ型の実践系科目を展開させる。</p> <p>② 授業においてデータベースの活用を取り入れ、エビデンスに基づく論理的思考の形成を図る。</p>